

- 県では、「レモン22億円産地計画」(目標年次;令和2年度)を策定し、水田や遊休農地を活用したレモン団地を整備し、実需者ニーズに応える生産体制を確立することで、需要が高まっている広島県産レモンの供給拡大を目指した。
- 「レモン22億円産地」を推進するうえで、以下の取組を実施した。
 - ①まとまった遊休農地等を活用した大規模農業団地の整備及び**レモン栽培に適したほ場条件整備の提案**や苗木からの栽培管理方法の支援。
 - ②**大規模レモン栽培モデル経営体の育成**及び取組拡大への支援。
- スマート農業技術の開発・実証プロジェクトで得られた成果の活用。

具体的な成果

1 レモン苗木の健全育成指導

- 苗木の育成指導(H30～R2)
早期成園化が図られるよう植え付け方法や圃場滞水対策のための明渠の設置支援
- ・モデル経営体栽培面積(ha)
1ha(H29) → 2.9ha(R2)
- ・健全生育樹率(%) (樹冠容積3m³以上)
100%(R2:5.3m³, 目標:80%)

平成30年6月



令和2年11月



樹容積:5.3m³

2 塩害対策の確立

- 塩害対策の方向性決定(H30)
- ・有識者助言→排水+砕石層+かん水(降雨を含めたリーチング)
- ・大規模団地候補地の地下水分析+定期的なモニタリングの実施

3 スマート農業への取組を支援

- スマート農業技術の開発・実証プロジェクト「レモンにおけるスマート農業機械等の一貫作業体系の実証」(R元～2)
- ・ドローン防除及び自律走行式草刈機
→省力効果が高い。

普及指導員の活動

平成30年度

- 普及指導員が中心となり、苗木の健全育成支援の実施。
- 干拓地の大規模団地造成ほ場でモニタリングにより**塩害発生リスクを発見**。
- 有識者の助言を受けながら**塩害対策指針を作成**。関係機関と情報共有し、対策実施のため工期延期と**入植予定者説明会での合意形成**に取り組んだ。

令和元年～2年度

- 大規模経営体での省力・作業効率化に向けた**スマート農業への取組**を支援。

ドローン防除



自律走行式草刈機



普及指導員だからできたこと

関係機関の役割分担のもとで、レモン栽培は困難とされていた水田に**試験圃場を設置**し、栽培環境及びレモンの生育調査して、**栽培の適否を判断**した。これらは、現場確認などきめ細かな観察と知識、理論的な説明などの活動は、普及指導員ならではの対応と考える。